

ケミクレア創立 70 周年 有機合成技術を究め 100 年企業へ

株式会社ケミクレア 代表取締役社長 山村敦士



代表取締役社長 山村敦士

株式会社ケミクレア 沿革

1955 年 4 月	千葉県市川市にて創業
1966 年 9 月	工場を千葉県千葉市に移転
1967 年 9 月	工業用殺菌剤原体の製造を開始
1990 年 5 月	工場を福島県いわき市小名浜に移転
1998 年 11 月	凱美瑞（江蘇）化工有限公司を南京市近郊に設立（2018 年 4 月 閉鎖）
2003 年 12 月	凱美瑞（蘇州）化工有限公司を太倉市に設立（2016 年 12 月 閉鎖）
2005 年 3 月	医薬品製造許可を取得、医薬品原薬の製造を開始
2011 年 6 月	太倉凱美瑞国際貿易有限公司を上海市近郊に設立
2012 年 9 月	小名浜事業所内に研究開発センターを新設
2024 年 1 月	原薬専用工場が操業開始

70 年の変遷 ～技術の深耕と発展～

ケミクレアは 1955 年に千葉県市川市で創業した。製造所拡張のため、また高度成長期によって工場周辺が住宅街に変わるなど外部環境の変化に適応するため、市川市から千葉市、千葉市から福島県いわき市と工場移転を行ってきた。

製造所の遷移と異なり、創業当時から製造してきたハロゲン化合物合成をはじめとする技術に対しては深耕が続けてきた。幾つか存在する技術的な転換点を紹介する。1 つは臭素系殺菌剤 DBNPA の固結防止技術を発見したこと。2 つ目に世界初の溶剤タイプの塩素系殺菌剤 ZONEN-F の発明。さらには、これも世界に先駆けてノンハロゲンタイプの防腐剤 ZONEN-MT の製造技術を確立したこと。これら殺菌剤事業で培った有機合成技術を基にファインケミカル事業では、エイズ薬クリキシパンの原料インデンプロモヒドリンを製造する臭素化技術、乳がん治療薬ラロキシフェンの 2 種の中間体を製造する技術（塩素化の技術、強催涙性の製品を安全にハンドリングするノウハウや Grignard 反応のノウハウ）で、世界の大手製薬メーカーから高い評価を得た。

また、精製技術、分析技術、品質管理体制や環境保護対策などを顧客や時代のニーズにあわせて改善向上してきたと自負している。社会的分業が成立している現代社会において、当社の企業理念である「よき企業市民として事業規模に応じた社会貢献活動を行う」、「欲のみに従わず、理に順った心裕な経営」と掲げているとおり、当社の生業である有機合成の技術向上に邁進することが、世の中に貢献をしていく手段であることを化学（Chemical）と創造（Creation）を組み合わせたケミクレアの社名にも表している。

チャレンジを続ける会社

四半世紀前には、製造能力とコスト競争力を図るため、中国に独資進出をした。中国に設立した 2 つの工場は、ビジ



臭素化工場外観



小名浜工場全景（福島県いわき市）



研究開発センター 実験フロア



原薬製造工場

ネス環境の変化によって2010年代に閉鎖したが、中国市場でのネットワークやビジネス経験は現在も活かされている。失敗がないところにチャレンジもない。考え抜いた上でチャレンジをしても、外部環境の変化などで思いどおりにならないことはあるが、問題が生じたら修正をすればよい。

チャレンジできる環境は主体性を生み、実践過程において社員は新たな知識やスキルを得て、行動の幅を広げることができる。仕事を楽しみながら達成感や自己成長を実感していける。当社はチャレンジによる失敗を責めない企業風土の醸成と経済的支援を実施して、会社で最も重要な経営資源である社員がより成長できるよう努めている。

100年企業へ

VUCA時代といわれて久しいが、そのような時代に成長を続けていけるように国内だけでなく国外への販路開拓、高い品質保証を担保するシステム導入、それを可能にするリソース投資、確保を行っている。例えば、医薬品事業のユニークな設備としては、GMP管理下で精留ができる熱媒蒸留塔（240℃）、熱安定性が低い化合物の精製に適している薄膜蒸留設備を有している。また、「うっかり間違えた」、「ぼんやりして見落とした」など

のヒューマンエラーから生じる原料や製品の取り違いリスクを最小限にすべく、QRコードで棚卸資産を管理するシステムを今年の4月から稼働させた。

独自の経営資源を投入するだけでなく、同業者や大学などの研究機関とコラボレーションすることにも力を入れ、新しい技術の獲得や新しい分野への応用可能性も模索している。環境負荷の高いマグネシウム塩および硝酸塩を全く含まずに従来品と同様の性能、安定性を実現した殺菌剤 ZONEN-NX の開発。独自の臭素化技術を活かし、高分子にユニークな特性をもたせることができる新規架橋剤 HDBMA の開発などに成功した。特に ZONEN-NX は、有機溶剤フリーでかつ環境負荷が低い殺菌剤として注目を浴び

ている。また、当社の特徴的な製品であるプロモ酢酸の誘導体は、金属抽出剤として貴金属やレアメタルのリサイクル用途のみならず、原子力発電分野での元素回収にも活用されている。

分野を限定せず広い視野をもって外部の知見を積極的に取り入れること、今まで培ってきた臭素化技術などの合成技術を深耕し、得意分野をさらに尖らせることによって、新しい素材や新しい技術といった有形無形を問わないモノづくりに邁進している。70年続いてきた当社のコア（核心）である有機合成技術を今後も深堀り、伝承することによって、当社を発展させながら社会に貢献をしていきたい。

© 2025 The Chemical Society of Japan



研究開発センター外観